

セメントで遊ぼう

このタイトルは、例年7月に開催している当所の一般公開にて当チームが継続しているモルタルによる文鎮づくり体験コーナーの名称です。新型コロナウイルスの影響で、今年は3年振りの開催でしたが、反省点もあるものの多くの子供たちが楽しそうにモルタルを練ってくれたのでほっとしているところです。

3年前までは、受付順に最大10数名の子どもたちを1グループとし、モルタルやコンクリートについての説明に続き、材料を小型ミキサーに入れてモルタルを練る様子を見てもらった後に、お菓子づくり用の型にこのモルタルを各自で詰めてもらい、少し硬化を待って脱型するまでの一連の行程を20分弱かけて体験してもらっていました。この間、服を汚さないよう大きいビニール袋で作った合羽を着てもらおうとともに、脱型後に実験室内の流しで手を洗ってもらい、また、脱型30分後以降に完全に硬化した作品を受け取りに来てもらっていました。

ところが、密回避のために1回当たりの人数を大幅に減らす必要があり、さらに合羽の着回しや、終了後の手洗い、型やミキサーの洗浄・再利用、実験室に戻って来てもらったの作品受け取りも、実験室内の動線や消毒を考えると課題となりました。

そこで、検討・試行を繰り返し、あらかじめ計量したセメントと砂をビニール袋に入れた状態で手渡し、定量の水を入れて袋ごと手揉みしてもらい、チームスタッフが袋の端をハサミで切って型枠となる紙コップに流し込むことで合羽を不要とし、所要時間5分弱でセメントによる硬化までを体験してもらうことが可能になりました。硬化した作品は、帰宅の際に本部受付で受け取ってもらうこととし、作成約30分後にチームスタッフが紙コップを剥がして脱型し、運んで本部受付担当の皆様の協力で手渡ししました。

当初は、体験コーナー自体が無理、と考えていたのですが、長年担当してきたE主任研究員をはじめ、チームスタッフの熱意により、様々な改良を加えて計252名の方に体験していただくことができました。毎年的人气から「大いなるマンネリ」とも評された体験コーナーですが、数年前の研修で教わった「唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。」(ダーウィン)という言葉がふと思い出しました。

(耐寒材料チーム 上席研究員 島多 昭典)

* * * *

表紙右上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。